

### 秋季町民グラウンド・ゴルフ大会

時11月7日(日)9:00~開会式  
(予備日11月9日(火))

#### 参加資格

以下のどちらかに当てはまる人

- ①町内在住者
- ②町内事業所勤務者



#### 競技方法

個人戦

所町民グラウンド

¥一人300円(申込み時に徴収)

日10月19日(火)までに申込書に参加費を添えて町民体育館へ提出してください。なお、熊野町GG協会会員は別途一括申込書より申し込みください。期日後の申し込みは受け付けません。(申込書は町民体育館にあります)

#### 注意事項

マスク着用、体温測定  
(体調不良、体温37.5°以上は参加不可)

固グラウンド・ゴルフ協会 竹川

☎854-3669

### 夢を生きる女性の為の教育・訓練賞の表彰者を募集します

国際ソロプチミスト熊野では顕彰事業の一環として「夢を生きる女性の為の教育・訓練賞」にふさわしい人を募集しています。以下の募集内容に該当する人は、自薦他薦を問いませんのでご応募ください。

#### 募集内容

家族を扶養する責任を負いながら、良い職業に就く為技術訓練や教育(通信教育も可)を受けている、または受けようとしている女性で、経済的援助が必要な人

#### 募集締め切り

11月27日(土)

固国際ソロプチミスト熊野事務局

(〒731-4229 安芸郡熊野町平谷1-15-10)

☎854-4785 ☎854-9709

(教育総務課)



### 紀ノ国わかやま聡文参加

#### 熊野高等学校

### この地に (305)

第45回全国高等学校総合文化祭(和歌山大会)書道部門に本校生徒が広島県代表10人の一人に選ばれ参加しました。参加したのは、芸術類型書道コース2年田村有莉咲さん(熊野東中出身)です。昨年の県大会で最優秀賞を受賞し、代表生徒となりました。8月4日和歌山県の白浜会館で書道部門の交流会が行われ、和歌山特産の漆器に揮毫し、「結実の木プロジェクト」と題して、葉や果実のカードにメッセージを書きました。全国代表のレベルの高い生徒作品約300点は白浜町立総合体育館に展示されました。8月5日は講評会が行われ、講師の先生によりピックアップされた作品が大型スクリーンに映し出され、作品の魅力について解説していただきました。その会場で田村さんの作品も映し出され、「古典の持つ整齊な字形を踏まえ、用筆・運筆と結構の特徴を追求した作品」と紹介されました。田村さんの作品は、今大会の優秀作品として「奨励賞『朝日新聞社賞』」も受賞しました。これから書道の道をめざす田村さんにとって大きな励みとなりました。



◀全国展会場にて受賞作品とともに

固熊野高等学校 ☎854-4155

桑原 奈緒美(母)  
このタイトルを見ると美しい物語を想像しそうですが、予想外のストーリーに読み入りました。読む人によって、結末の印象が変わる面白本だと思います。

(教育総務課)



### つなぐ伝統

#### 熊野東中学校

2年ぶりの体育祭に向け、3年生が一度経験した記憶を頼りながら、これまで脈々と受け継がれてきた東中体育祭の魂・心意気を後輩たちに伝承しようと汗を流し、知恵を絞ってくれています。

夏休み前に3つの団に分かれて結団式を行いました。各団のリーダーは伝統の継承者という使命感のもと、自分たちの体育祭にかける思いを広い運動場の空に向かって堂々と語ってくれました。

夏休み中には、各団のリーダーが集まり、応援の振り付けを考え、自らが手本となるべく練習を繰り返しました。

今年度の生徒会が掲げた体育祭テーマは、「全集中～全員参加・全員感動～」です。このテーマには、先輩たちから受け継いだ一致団結して頑張る東中生徒の心意気が感じられます。

コロナ禍で、制約がある中での体育祭実施ですが、3年生が後輩たちに受け継ごうとしている思い・東中魂は、2年生・1年生の心にしっかり根付くものと確信しています。



(教育総務課)

### 教育の情報化が動き始めています！

#### 熊野第二小学校

熊野第二小学校では、昨年度末に一人一台のタブレット端末が貸与されて以来、ネットワーク型のドリル学習を中心に全学年でICTの活用を行ってきました。今夏には4年生以上の児童が家庭にタブレットを持ち帰り、活用の幅を広げています。

また、2学期からは横幅が176cmある75インチの大型電子黒板が各教室および一部特別教室に整備されました。9月の学級開きの様子を見ると、さっそく大型電子黒板を使ってやり取りをする教員の姿がありました。子供たちもとても嬉しそうです。

この電子黒板は、教師の端末画面を大画面で表示したり、子供の考えを表示したりするだけでなく、黒板機能もあり、黒板として書いたものを保存したり、以前に書いたものを呼び出したりできます。これからは様々な機能を組み合わせながらICTを活用し、子供たちの「深い学び」を推進していきます。



(教育総務課)